



ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出合いや発見がきっとある

年頭のご挨拶



(財)北海道生涯学習協会

会長 新谷 淳治

新年明けましておめでとうございます。

本年も昨年引き続き、よろしくご指導の程お願いを申し上げます。

お陰様で平成十三年に開設致しました「道民カレッジ」は、平成十七年十月末で、

学生数一万七〇〇〇名、連携講座数一、四三八講座、称号取得者一五五名に達し、

関係各位のご協力に対し、深甚の謝意を表する次第でございます。

さて、最近は殆ど連日のように、人命に関わる事件、特にいたいけな子供に対するむごい報道に心が傷みます。

「町も人も病んでいる」という言句を見かけますが、やり切れない思いとなりま

す。先日、「日本漢字能力検定協会」が全国公募した、新年の漢字に「愛」が選ばれたのも多くの方々の強い願望の表れであろうと思えます。

近年、道州制・支庁統廃合、或いは市町村合併問題が広く論議されております。

財源・過疎などを背景にした戦後最大の地域再編問題ですが、私は同時に数年後

に訪れる団塊世代の人々の六十代参加の具体的な課題、更には長寿・少子化社会問題等々、好ましい人間環境での具体的な提言を重要テーマとして、広く論議を求め

る時代でなからうかと考えます。

当協会も今回『北海道公民館協会』並びに『北海道社会教育委員連絡協議会』の事務局をお預かりすることになりましたので、これを契機に三者一体となって地域の生涯学習振興のお役に立ちたいものだと希望しております。

今日財政上の問題が取り上げられることが多くなっておりますが、それだけに今

日程、智恵と想像を以て「心の充足」を促進させる温かな人間愛運動で、生き生きとした地域社会の活性化を促す方策の樹立を必須な課題とすべきでありましょう。

そのためには、「私のための生涯学習」と同時に「私を越えた社会」という広場に

に多くの人々と結びあう「愛」の生涯学習が大切だと存じますが、改めまして、皆様方のご助言を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

目次

- 道民カレッジからのお知らせ…………… 2
- 道社連協からのお知らせ…………… 3
- 生涯学習実践記録と研究論文の募集…………… 3
- 地域づくり人づくり事業（弟子屈町）…………… 4
- 視聴覚センターからのお知らせ…………… 5
- 占冠村の生涯学習…………… 6
- 新会員紹介…………… 6

「道民カレッジ」からのお知らせ

(十二月一日現在)

◇学生数が着実にアップ

平成十六年度末 一万七二七〇人
 平成十五年度末 一万四八六六人
 平成十四年度末 一万三三五七人
 平成十三年度末 一万一〇二四人

◇講座数が大幅に増加

一四四二講座
 平成十六年度末……………一二三三講座
 平成十五年度末……………九四九講座
 平成十四年度末……………六四五講座
 平成十三年度末……………二一三講座

◇称号取得者

・学士(一〇〇〇単位) 九十八名
 ・修士(二〇〇〇単位) 四十名
 ・博士(三〇〇〇単位) 二十六名

◇「ほっかいどう学」出前講座

「ほっかいどう学」は、私たちの住む北海道の現在を見つめ、過去を知り、未来のあり方を考えるための学習講座に加えて、地域づくりの実践方法について学ぶ学習プログラムです。

「ほっかいどう学」出前講座は、こうした地域づくりをテーマに希望する市町村の要望に応え、市町村と道民カレッジが協働で地域課題に取り組む学習です。

道民自身が北海道づくり・地域づくりの主体として学習する参加型の学習方法を取り入れ、主体的な学びによって培われた知識と能力を生かし、北海道づくりや地域づくりのリーダーを育てる人材育成を目指しています。

- 九月二十四日(土) 十時
 ・場所 丸瀬布町農村集落多目的協働利用施設
 ・講師 東京交通博物館 学芸員 佐藤美知男
- 九月二十八日(水) 十時
 ・場所 留萌市中央公民館
 ・講師 登別市文化協会 会長 小林 正明
- 十月十四日(金) 十時
 ・場所 松前町民総合センター
 ・講師 (株)リージャスト 技術顧問 奥平 忠志
- 十一月十九日(土) 十時
 ・場所 浦河町総合文化会館
 ・講師 北海道医療大学 助教授 堀田 清
- 十一月二十九日(火) 十時
 ・場所 上湧別町ふるさと館
 ・講師 ノンフィクション作家 合田 一道
- 十二月十一日(日) 十時
 ・場所 由仁町文化交流館
 ・講師 天使大学 教授 荒川 義人
- 十二月十八日(日) 十時
 ・場所 帯広市とかちプラザ
 ・講師 札幌国際大学 教授 吉岡 宏高



■これから実施される出前講座

- 一月二十六日(木) 八時半
 ・場所 中富良野町公民館
 ・講師 北海道教育大学 教授 内田 和浩
 - 一月二十八日(土) 十時
 ・場所 士幌町公民館
 ・講師 国立教育政策研究所 教授 笹井 宏益
 - 一月二十九日(日) 十時
 ・場所 七飯町文化センター
 ・講師 医療法人耕仁会札幌太田病院 理事長 太田 耕平
 - 一月三十一日(火) 十時
 ・場所 由仁町文化交流館
 ・講師 北海道大学 教授 木村 純
 - 二月一日・八日・十五日(水)
 ・場所 長沼町公民館
 ・講師 北海道大学 名誉教授 山田 定一
- ※根釧圏域の出前講座・未定

「ほっかいどう学」かでの講座

好評の中で開催中!

- 一月十三日(金)
 「知って得するお金の常識」
 ～生命保険活用術～
 (有)北日本リスクマネジメント 代表取締役 紺田 晴久
- 一月二十八日(土)
 「北の歴史を彩る」
 ～北海道遺産あれこれ～
 ノンフィクション作家 合田 一道
- ユニット(二講座) 二、〇〇〇円
 □一講座のみ 一、二〇〇円

▼「学びの広場」の利用案内

かでの2・7の九階にあります「情報交流広場」(まなびの広場)では、道内各市町村のPRや様々な生涯学習関係団体の活動紹介・展示等の発表の場を提供しています。月平均一万二千人の方が訪れるこの場所で、特に市町村で取り組まれているイベントPRや施設の紹介・作品展示会場等として、是非ご利用をお待ちしています。なお、応募要領は後日各市町村へ送付します。



- ◇まなびの広場面積 約一四八㎡
 - ◇固定展示ケース 二カ所
 - ◇貸出可能備品
 - ・移動展示パネル 四台
 - ・移動展示ケース 一台
 - ・物置 台 一台
 - ・展示案内板 一台
 - ・マグフック 三十個
 - ・パーティションフック 四十個
 - ・長机 三台
 - ・資料置き台 一台
 - ・カラーピン 三〇〇本
 - ・ピンタックキット 二組
 - ・その他(画鋏・セロテープ)
- 道内各市町村の応募をお待ちしています。

私の生涯学習

『趣味は立ち読み』

道民カレッジ博士
江別市 蛭川 剛之

「ご趣味は！」と聞かれると、一昔前なら、大半の人が「読書」と応えていたが、活字離れの進んだ昨今ではどうなのであろうか。
九十七歳になった母の趣味は、今でも「読書」である。

私が小学生の頃、貸本屋というのがあった。一日借りて幾らというもので、大方は翌日返しに行ったが、ものによっては、その日のうちに返したりした。母はお得意様であった。熱中して夕食の支度に遅れたことが何度もあり、父によく叱られていた。それでも、次の日にはまた足が向いていた。お供をするのはいつも私。私も少年倶楽部などを借りたが、講談雑誌が最も好きであった。

十九歳の年に札幌に出て、一年間植物園の前で寮生活をおくった。その頃は、時間はあったが、本を買う金がなかった。従って立ち読みである。札幌は書店が多く、駅前から南一条までの四軒を梯子する訳である。初めての店で目標を決め、まず二十分ばかり読み、少し店内をぶらついて、違うものを手に取ったりする。ほとぼりが覚めた頃、また続きを読む、ということになる。
第一章とか、一〇〇ページとか区切りの良いところでその店を出て、次の店に入り、一軒目の繰り返しをする。午前中をかけると、薄いものなら読み終わるといふ訳である。

背中に店員の視線を感じたり、時にはハタキがそばで使われたりするが、母親の遺伝子がものを言う。
そんな生活が何年か続いた。

今でも、待ち合わせには書店を使う。ただ、立ち読みをする根気も体力もなくなった。それに世間体を気にするようにもなった。

幸い、私の家から歩いて五分の所に道立図書館があり、自転車で五分六分走れば大森図書館がある。それに、近くには札幌学院大学の図書館もあり、道民カレッジのお陰で簡単に利用ができる。

この九月から、道立図書館が奥の書庫を開放してくれた。朝から握り飯を持って通いたいぐらい興味のある本が山ほどある。許されるのなら枕を持参して、読み疲れたら昼寝をしようと思ったりする。

二〇〇〇年から、新潮社のマイブツを求め、毎日、読書の記録を綴っているが、一言の感想を書くのに、いろいろと頭を捻るのがまた楽しい。

今は、ようやく取得した「道民カレッジ博士」に拍車をかけ、暇を見つけては様々な講座に足を運んだり、古希野球チーム「札幌スタール」で週3回野球をするのが楽しみである。



第20回全日本選抜軟式野球大会 2004. 9. 29～東京ドーム他

道社連協 からのお知らせ

第四十七回全国社会教育研究大会終わる

〓人と自然が共生する田園都市おびひろで開催〓

全国津々浦々から千百名の社会教育関係者が一堂に会し、第四十七回全国社会教育研究大会が、平成十七年十月二十六日から二十八日までの三日間、来賓に、文部科学省大臣官房審議官中田徹様、北海道教育委員会教育長相馬秋夫様をお迎えし、帯広市において盛会・有意義に開催されました。

研究主題

「新しい地域づくりのための社会教育を考える」

内容

〓基調講演 「役に立つ社会教育」

文部科学省生涯学習政策局

社会教育課長 三浦 春政氏

〓分科会による研究協議（七分科会構成）

① 社会教育委員の活動 ② 家庭教育

③ 青少年の体験活動 ④ ボランティア

活動 ⑤ 学習機会

の提供 ⑥ コミュニティづくり

⑦ 社会教育施設

〓記念講演 時田則雄氏（帯広市歌人）

〓アトラクション

本研究大会の特色は、道社連協（会長 関寺恭朗）が継続五ヶ年研究の集大成として全国に発信できたことです。また、話題提供者・司会者・助言者の方々、大会の企画・運営にあたられました関係各位に衷心より感謝とお礼を申し上げます。



生涯学習実践記録と 研究論文募集のお知らせ

生涯学習実践記録と研究論文を募集しています。
締切りは1月20日(金)です。(当日消印有効)

◎ テーマ

★わたしの生涯学習

(社会参加、ボランティア、リカレント、家庭の取り組みなど)

★わがまちの生涯学習

(市町村・学校・民間・地域における取組など)

★これからの生涯学習

(あなたの夢やビジョン、新しい時代への提言、ITを活用した取組、国際的な活動)

◎ 応募の方法

☆原稿 4000字(400字×10枚)程度

表紙に郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・職業・電話番号を明記してください。

☆問い合わせ・送付先

財団法人北海道生涯学習協会

〒060-0002

札幌市中央区北二条西七丁目

かでの2・7 9階

電話 011-281-6661

FAX 011-281-6664

多くの皆様の応募をお待ちしています。(副賞有り)

平成十七年度 地域づくり人づくり事業 弟子屈町



弟子屈町 屈斜路湖

十月二十四日(月)に、第一回の「地域づくり人づくり」事業が、釧路管内弟子屈町の川湯ふるさと館を会場に開催されました。

平成十八年度に川湯温泉を会場として開催される「第二回源泉かけ流し温泉サミット」の基礎研修的な要素も含んで、地域の温泉旅館関係者や観光協会関係者、役場を始め町内の様々な団体の関係者や弟子屈町の魅力に惹かれて移住してきた人など多数の町民の方が参加されました。

基調講演は、日本初の温泉学教授としてつとに有名な札幌国際大学教授松田忠徳氏が「地域資源としての温泉を生かしたまちづくり〜勝ち組の温泉・負け組の温泉〜」と題して十月二日に奈良県十津川村において

開催された「源泉かけ流し温泉サミット in 十津川」のことを口火として、日本の温泉の現状、課題、温泉地として勝ち組になるための戦略や戦術などについて、予定の時間を大幅に超えて熱弁をふるわれました。

その中で、温泉は世相を写す鏡であり、かつてはネームバリューだけで熱海だ伊東だいうことで賑わっていたが、温泉の成分や加水、塩素殺菌、入浴剤混入などにより温泉への人々の信頼を失った。源泉かけ流しなど積極的にアピールして行かなくては、元々きちんとしていたところでも信頼を回復することは容易ではないこと。例えば、奈良県あたりでは、客入りが前年比四十%程度に止まっている。



札幌国際大学教授 松田 忠徳 氏

こうしたことは、温泉の危機ではなく、むしろ経営の危機である。

それでも社会生活の荒波にもまれた二十代の若い人や団塊の世代の女性が行者の主体ということでは、支持されている。

風土記にも温泉につかった事は記されているし、最近では在野の考古学者により縄文人も温泉を利用していたことが湯花の跡から判明した。

国でも温泉の表示として四点、

- 一、循環しているか
- 二、加温しているか
- 三、加水しているか
- 四、塩素は入れているか

を義務づけるようになったが、加水



のパーセントや源泉率を示さなくとも良いなど、まだ不十分なところがある。

川湯には、素材として源泉があり、湯量が豊富で、食材がある。戦略・戦術として手作りの、持続的イベントなどを工夫し、源泉かけ流しである魅力などをマスコミなども利用しながら大いに発信してほしい。といった内容を話されました。

この後の意見交換会では、かつて観光で訪れ、弟子屈町の魅せられ本州から移住された方から、「弟子屈には自然や温泉などたくさん良いところがあるのに十分に発信していない。」と言う意見が出され、講師からは、「川湯も弟子屈も屈斜路湖も外から見れば、一つです、共通のシンボルを作るなど、弟子屈をもっと消費者に知らせましょう。」とアドバイスがありました。

弟子屈町の「温泉を生かしたまちづくり」への意欲が伺える事業であった。



知的 快適 創造的なオフィス創りで貢献する
サンコー事務機株式会社

代表取締役
澤 飯 博

〒060-0013
札幌市中央区北13条西18丁目36番90
Tel (011) 614-2255 (代表)
Fax (011) 614-5245
E-mail. sawaii@sancoh.gr.jp
Homepage http://www.sancoh.gr.jp/

視聴覚センター
からのお知らせ

視聴覚教材利用者の声から

視聴覚センターでは、利用者からアンケートにより教材整備のためのご意見をいただいておりますが、視聴覚教材を利用してみての感想から、何点かご紹介いたします。

・中学校保健体育教諭「中学生のための性教育シリーズは、指導する上で、たいへん具体的な内容で分かりやすく指導に役立ちました。」

・高等学校国語教諭「アニメ古典文学は、生徒の学習への動機付けとしてとても使い勝手が良く、学習成果も上がってきています。」

・公民館主事「高齢者の学習に、日本の名映画や人情喜劇のビデオを利用しているが、たいへん好評で、笑いあり涙ありで楽しく生涯学習が進んでいきます。」

・道立少年自然の家指導員「子どもの居場所づくりで、アニメを利用させてほしいのですが、内容も良く子どもたちが、大



変熱心に見てくれて、運営者としてもとても助かります。」

平成十七年度後期整備教材の紹介

【教育・福祉】

「ステップ」「ひびけ！和だいいこ」

「みみをすまます」 BGMのCD

【産業・技術】

「にんげんだもの」「てんびんの詩」

「アスベスト・粉じん対策」

【芸術・芸能】

「野坂昭如戦争童話集忘れてはイケナイ物語り」全4巻

「神の子たち」「父と暮らせば」

【家庭生活・趣味】

「安全安心な食を考えるシリーズ」全3巻

「食卓から防ごう！生活習慣病」全2巻

【市民生活・国際理解】

「大人の居場所づくりー地域に根ざすボランティア活動」

「見落とさない！「衰え」の信号ー高齢ドライバーの事故を防ぐ」

【学校教育】

「金子みすず やさしさの風景」「五井先生と太郎」

「小学校特別活動用ビデオ薬物乱用防止シリーズ」全2巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

「学びの達人ビデオ教材シリーズ」全5巻

視聴覚センターから視聴覚教材を借りるには？

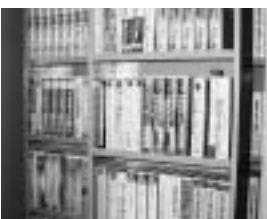
- ・利用を希望する方は、電話又は視聴覚センターへ直接お越しになるか、HP（ホームページ）上からの予約（団体登録の後）や検索も出来ます。
- ・利用教材（ビデオ、DVD、16mmフィルム、CD）約5,000本
- ・利用期間・利用本数（7日間・5本まで）
- ・利用できる方（・一般教材＝団体・グループ・サークル）
- ・エルネット教材＝個人・団体・グループ・サークル）

【問い合わせ先】

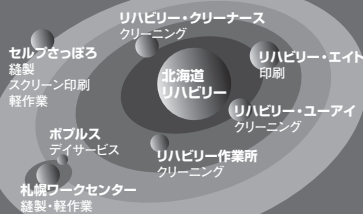
北海道立生涯学習推進センター附属視聴覚センター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7ビル10F

TEL 011-231-4111（内線36-345）FAX 011-261-7431



全ての人に、働く権利と喜びがあります。



社会福祉法人 北海道リハビリ

〒061-1195 北海道北広島市西の里507番地1
TEL (011) 375-2111 (代) FAX (011) 375-4051 www.selip.net

眺めの良い喫茶店！

「かでの2・7」9階

喫茶つぐみ

営業時間 9:00～17:00（日祭日除く）
道庁内線 36-341



¥260

コーヒーの他各種飲み物、軽食もごぞいます

事務用品・オフィス家具・OA機器・教育機器 販売

有限会社 オフィス・ノルテ

〒005-0006
札幌市南区澄川6条6丁目2-5
TEL 011-811-9958
FAX 011-811-9959

占冠村の生涯学習

住民の手で創る生涯学習

～自主創造プログラムの活用～

「官主導の事業展開から住民主導の事業展開へ」というキャッチフレーズのもと、占冠村では平成十七年度より「自主創造プログラム」を生涯学習事業の柱とすることとしました。

自主創造プログラムとは、その名の通り住民自らが生涯学習事業を企画・実施するもので、今年度は公民館事業の多くを当該事業に一本化する試みがなされています。

現在の多様化する生涯学習ニーズに対応し、限られた予算と人員で最大限の効果を上げることがこの事業の大きな目的です。

事例の一つをご紹介します

十月十六日(日)、占冠村コミュニティプラザにて行われた自主創造プログラム事業「図書まつり」は、実行委員自らが道立図書館を訪問して借用物品の使用方法を学んだり、札幌市にある生涯学習推進施設「かでの2・7」を訪問して討議を行うなど、当初の企画立案から事業の実行までのほとんどを、図書に興味を

持つ住民の皆様が行う住民参加型イベントとなりました。



図書まつりでの一風景

住民参加の新たなツール

～社教委員メーリングリスト開設～

占冠村社会教育委員兼公民館運営審議会委員会議では、日頃仕事を抱えている社教委員等が時間を気にすることなく自由に提案・討議する場として、メーリングリストを開設しました。今年十一月二十四日の運用開始から数日という状況ですが、今後の住民自らがそれぞれ生涯学習を考え、議論していく場として期待が寄せられています。

道民カレッジの活用

「いつでも、どこでも、誰もが、なんでも学ぶ」という生涯学習を推進するためには、単独の市町村による行政施策対応のみでは甚だ不十分と言えましょう。このような市町村の悩みを解決してくれるのが「道民カレッジ」です。占冠村では、道民カレッジマナビストの会代表の五郎部氏を招聘して講演会を行うなど、道民カレッジでの学びを奨励しています。今年はずでに十二名の新入学者があり、それぞれ積極的な学習を進めています。恥ずかしながら私も何度か「かでの2・7」や「札幌大学」で行われた講義に参加させて頂きましたが、普段、学ぼうと思ってもなかなか学ぶことができなかったり、独学では取り組めないような事柄が、講義形式になると簡単かつ短時間で理解できることに改めて驚いています。

皆さんも是非道民カレッジにご参加下さい。連携講座のガイドブックをめくれば、必ずあなたの聞いてみたい・体験してみたい講座があるはずです。

(占冠村教育委員会)

主査・社会教育主事 三浦康幸

新会員紹介

次の方が新たに賛助会員になりました。

今後ともよろしく願っています。

・個人会員

橋本 勝晴 (北広島市)

事務局からお願い

本年度の会費納入について、誠に恐縮ですが、賛助会費未納の方は納入についてご協力をお願いします。

また、会員の皆様で住所を変更された方は事務局までお知らせ下さい。

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年は、会員並びに関係者の皆様のご支援・ご協力により事業も順調に実施することができました。心よりお礼を申し上げます。

さて新しい年を迎え、生きがいづくり生涯学習促進事業をはじめ、新たにスタートしました「ほっかいどう学」を基軸とした道民カレッジ大学放送講座や出前講座、協会独自の自主企画事業「かでの講座」等、協会事業の更なる充実を図りながら北海道の生涯学習の推進に努めて参りたいと考えています。

今年もは戊午年、新たな目標に向かって大きくジャンプしたいと考えています。皆様にとっても飛躍の一年となります。皆様のご祈念申し上げます。